

| 重点取組分野 | 令和 2 年度 | |
|-----------------|--|---|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 |
| 生きてはたらく知 | ①主体的に学び続けるために、自ら課題を設定し、解決に向けて探究的に学習を深めていけるような授業づくりを行う。②基礎基本を定着するために、各教科の指導内容を確実に身に付けることができるような授業改善を図るとともに、学んだことを生活・総合を中心に活用できるようなカリキュラムを編成する。③自分の考えや思いを伝えたり、多様な考えを認め合ったりするために、学習環境を整える。 | ①生活科と総合を軸とした授業づくりに取り組み、クラスの実態に応じた課題を設定し、一人一人が進んで探究的に学びを深めた。課題設定→追究→振り返りのサイクルが徐々に定着した。②教科横断的なカリキュラム編成をし、習得した知識や技能を教育活動のなかで生かすことができた。③話し合い活動では、話型やハンドサインを用い、分かりやすく伝える学習環境を整えた。 |
| 豊かな心 | ①高学年のリーダー意識・自己有用感を高める場として行事やたて割り活動を通して豊かな関係づくりに努める。②あいさつをすることの意味について考え、あいさつの大切さや方法にも触れ、気持ちがつながるよさを実感させる。③新しい生活様式の下、相手意識をもち新しい方法を活用し、工夫していく。 | ①たてわり活動の意義を大切に、形態をペア学年に狭め活動を継続した。この形態でも高学年のリーダー意識を高めることができた。②つながりを意識して、肘タッチやエアタッチなど今できる挨拶を工夫し実践した。つながるよさを実感した。③新しい生活様式の下、永田中ブロックの挨拶運動については、方法を検討していく。 |
| 特別支援教育 | ①個の学習を支援するために、ユニバーサルデザインを意識した場づくり、授業等に取り組む。②全職員で見直したスタンダードをもとに児童が「安心して」過ごせる環境を整える。 | ①算数の少人数制、ぱわーあっぐ教室など定着実施に向け、時間割を学校全体で調整した。②安心した学校生活を送ることを大切にし、そのためのロッカー・道具箱の使い方を写真で掲示し、全クラスで共有した。次年度も同様のものを使用したり、スタンダードを見直しながら取り組んでいく。 |
| 児童指導 | ①問題行動・不適応行動については、教職員のアンテナを高くし、未然防止・早期発見を心がける。事案は学級担任が一人で抱え込まずチームで対応し、学校全体で配慮を要する児童について共有していく場をつくる。また、ゴールや役割を明確にした共有(ケース会議等)をしていく。②教職員が新型コロナウイルス感染症についての正しい知識を理解し、児童に対応する。心のケアを意識ながら、安全・安心して学校生活を送れるよう配慮する。 | ①情報共有を図るための事案ファイルを継続して作成し、迅速・丁寧な児童理解に努めた。事案の整理や聞き取りの仕方などは引き続き改善し、職員の対応がそろうように努める。②心とからだのアンケートを実施し、休校中の児童の心のケアを意識した指導を行った。また、新型コロナウイルスの正しい知識を理解し、永田台スタンダードに追記しながら柔軟に対応できるように作り変えた。 |
| 健やかな体 | ①自身の健康状態を把握し、正しい知識のもとに体を動かす楽しさを感じ、日常につなげる姿をめざす。②学校保健委員会を中心に児童が主体的に健康について考え実践するようにする。 | ①体力テストは未実施だったが徒競走の記録を取り、運動会のリレー選手選考にあてた。昨年度の結果をもとに敏捷性向上を図るため、反復横跳びを朝学習時に実施した。記録カードを活用し、運動のきっかけづくりとなった。②手洗い励行、マスク着用、消毒、清掃の趣旨説明を繰り返し行い、自覚をもって実践する姿が見られた。 |
| 地域連携 学校運営協議会 | ①学校として参加できることを職員・児童で考え、進んで参画し、まちづくりの担い手を育てる。②学校地域コーディネーターやPTAと連携し、見守りの輪を広げたり、地域とのつながりを深めたりする取り組みを続ける。 | ①つながり祭での6年生企画永田台マラソン、2年生のほっとサライとの交流など生活科・総合学習の中で人との関わりやまちの一員としての意識が高まった。②地域コーディネーターを中心として芝生の手入れが始まった。 |

| | | | |
|------------------|--|--|--|
| いじめへの対応 | ①「いじめ根絶メソッド」等を活用し、職員一人一人の危機管理意識を高めながら、未然防止、早期発見・早期解決に向けた取り組む。②発生時には、迅速かつ被害児童に寄り添った対応ができるよう組織的に対応する。 | ①職員会議や打ち合わせを中心に「いじめの未然防止対応の基本」を確認し、事案の未然防止と早期発見に努めた。②事案発生時には、いじめ防止対策委員会を設置し、組織的に対応した。情報共有の仕方や記録の残し方は次年度も課題とする。 | |
| 人材育成・組織運営（働き方改革） | ①メンターチーム、校内初任研コーディネーターを中心に意図的、計画的、継続的に校内の人材育成を図る。②職員が互いのよさを認め合い支え合うことで充実した働き方につなげる。③ブロックリーダーを中心に学年を越えて情報共有を行い、持続的な組織成長につなげていく。 | メンターチーム、校内初任研コーディネーターを中心として計画的に研修や相談会を行い、授業力向上を図った。また、会議を精選していく中で相談する時間が生まれ、学年を越えて相談しやすい雰囲気づくりに努め、互いに気遣い合う職員集団になってきた。担当やメンターだけで情報を共有するのではなく、全体に周知したり研修会の参加者を広げたりして学校全体で成長できる職員集団を目指していきたい。 | |
| ブロック内評価後の気付き | 学校行事や様々な活動が変更・中止となった中、中期目標の実現に向け、ガイドラインを読み込みながら今できることを模索し、つながりを絶やさない取組を意識して実践した。また、状況に応じて柔軟に対応する姿勢で取り組んでいく中で、教育活動の内容を精査するきっかけとなっただけでなく、様々な活動について目的をより多面的な視点に立って考えることができた。小中連携の取組については、予定していた活動は行えなかったが、中学校との担任情報交換や国語の学習を通じた年賀状など、学校間のつながりを継続しようと努めた。次年度はコロナ禍でも実施可能な活動を計画して中学校ブロックの連携を図りたい。 | | |
| 学校関係者評価 | 例年は年2回のまち懇を開催し、授業参観していただくとともに、学校経営についてご意見を伺ってきたが、今年度はその開催が難しかったため12月に文書での報告を行った。4月の臨時休業中の学校の取組、6月に再開した後の、感染症対策の実際、工夫して実施した行事や学習活動の様子等を写真入りでお知らせした。会の方々からは学校の取組について暖かい応援の声が多く寄せられている。 | | |
| 中期取組目標振り返り | <p>「様々なつながりを大切にし、一人一人のよさが輝く学校」</p> <p>コロナ渦で目標達成に向けて取り組むことは困難な場面が多かった。子どもの学びを止めないと意識して職員一丸となり、今できることに最大限取り組んだ。そのために場面ごとに応じた職員を招集し、柔軟な会議を繰り返した。これを通して、学校として大切にしたいことと、修正・中止することがはっきりし、粹にとられない活動が生まれることにつながった。何より、みんなで乗り越えようとする意識が職員の中で共通理解できたことが児童にも伝わったり、前向きな取組み評価につながった。これからも話し合いを大切にしながらつながりの輪を強固なものとしていきたい。</p> | | |